

第百三十九話 戦友会の今とこれから

本日(2019/10/26)全国ソロモン会の令和元年度慰霊祭(・総会)(於:靖国神社)に参列させて頂いた。数多ある慰霊・顕彰団体の中でも屈指の活動実績を誇る同会であるが、御遺族のみならずより若い世代の参列者が多かったことに感動を覚えた。戦友会はどうなっているのだろうかと思い、少々調べてみた。御遺族の高齢化・ご逝去もあり大きな転換点に差し掛かっているようだ。

1 戦友会

戦友会とは基本的には、帝国陸軍及び海軍の元軍人を中心に組織された民間団体であり、同一部隊や戦場で従軍した将兵及びその関係者で構成されている。戦友会の目的は、戦没者の慰霊・顕彰、遺骨の帰還事業及び親睦等である。

2 戦友会の組織原理

戦友会は、同じ釜の飯を食った同一部隊の将兵と戦没者のご遺族等で構成される場合と、同じ戦場で苦難を共にした将兵と戦没者のご遺族で構成される場合が多い。また、厳密な意味では戦友とは言えないにしても、軍学校等における同期生等をもって構成される場合もあれば、シベリア抑留者が収容所単位で組織した会、更には出身地単位の戦友会もある等多様多様である。部隊レベルも連・大隊単位から師団、軍レベルと多様だ。

3 団体数について

戦後の1953(S28)年頃から多数の戦友会が誕生し、最盛期には数千とも云われる。ある調査では、1980年約1300団体、1983年約1600団体とも。

全国組織として、全国戦友連合会(1968設立)があったが、2002年に解散した。1990年代以降、会員の高齢化や逝去によって、活動停止や解散を迎える戦友会が増えている。名だけの団体もあるやに仄聞する。その一方、本日参加したソロモン会のように若い世代が事務局を担い、活発に活動している団体もあるが、それは希少だ。

4 活動内容

活動は、戦没者の慰霊と会員相互の親睦が主である。本日慰霊祭を齎した全国ソロモン会の活動内容を紹介する。①遺骨帰還事業(政府派遣の帰還事業参加、遺族会等の帰還事業への協力、JYMA等の協力を得てカバー戦域の調査及び帰還事業) ②慰霊巡拝の実施 ③慰霊祭 ④会誌等の発行 ⑤関係団体、関係国等との交流 ⑦その他
(委細は同会のHP <http://www.japan-solomon.com/>)



5 今後の課題は

短期的には、会勢の拡大若しくは維持が課題である。従軍将兵御本人やご遺族の逝去や高齢化により活動困難となりつつある団体も多い。お孫さんや志ある若者が会員として参加している団体もある。今後、如何にして、戦友会の想いや活動を若い次世代に継承するかが問われている。日本国民の心奥深く眠っている英霊への感謝と敬意を掘り起こす秋来ると確信する。

戦没者の慰霊・顕彰や遺骨の帰還事業は本来的に国家の事業そのものだ。もう少し、本腰を入れて取り組んで頂きたいものだ。特に遺骨の帰還事業は、残された時間は僅かと云える。神速の解決を切望する。

このような中長期的課題もさることながら、活動が困難となりつつある団体への何らかの支援策をも検討すべきではなかろうか？

また、大東亜戦争とは何だったのか、日本は如何に戦ったのか、それらがあってこそ今日の繁栄と平和があること等を、戦争を知らない若い世代に啓蒙することが肝要だ。

- * 遺骨帰還事業の完結なくして日本の戦後は終わらず、英霊の慰霊・顕彰なくして日本の再生はないと信ずるがどうだろうか？